

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

クリスマスの驚くべき恵み

女性牧師部部長 黛 睦子



クリスマス節季を迎え、皆様の上にクリスマスの恵みが豊かに注がれますように祝福をお祈り申し上げます。

神の愛はいつも人の思いを超え、驚くべき恵みとなって私たちに届けられます。救い主御降誕に欠かせないマリヤの記事からもその恵みを知らされます。

◆無名の一女性に目を留められた神
「私の霊は私の救い主である神をたたえます。この卑しいはしのために目を留めてくださったからです。」（ルカー・47、48）

ナザレ村のマリヤに全能者なる神が目留めておられました。マリヤを通して全人類の救い主を世に送り出すためにです。御使いガブリエルの第一声は「おめでとう、恵まれた方、主があなたとともにおられます。」との祝福の言葉でした。神に目を留めて頂くことは恵みと祝福である、と知らされます。それは後に続く恵みが備えられているからです。神は主を信じる無名の私たちにも愛の眼差しを留めていてくださいます。

◆処女マリヤの受胎告知に知らされる神の謙遜
「あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。……」（ルカー・31、33）

マリヤに委ねられた大きな使命は救い主を宿す、という驚くべきものでした。女性が数に入れられない時代にマリヤの胎に宿られた神の謙遜は、人の思いを遙かに超えた驚きであり神の愛が伝わって参ります。

◆神の御業は神の方法でなされる

マリヤの問いに御使いは「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。……」、「神にとって不可能なことはありません。」（ルカー・35、37）と答えました。神の恵みの御業はいつも豊かで、人の思いを超えた神の方法でなされます。その時に御名の栄光が顕され、私たちは神の偉大さと神を畏れることを知らされます。

◆神の聖言を謙虚に受け取り生涯を献げたマリヤ
「私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」（ルカー・38）

直面する様々な困難がよぎったであろう中、マリヤは神の御心を優先し、主のはしためとして終生主に従う信仰をもって神に応答しました。

◆神のご配慮

「この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいわずで、名をマリヤといった。」（ルカー・27）
マリヤがヨセフの許嫁であったことは、全てをご存知の神の行き届いたご配慮であったと知らされます。ヨセフは同じ信仰、献身、愛の服従をもって共に担える人でした。神は私たちにもご配慮くださいます。

マリヤは聖言への信仰と献身をもって応答し、聖霊と神の力によって御子を宿しました。救いを成し遂げられた主を、聖言のごとく救い主と信じる私たちは、聖霊によって今救い主を心に宿しています。この事実が驚くべき尊い神の恵みです。栄光は神に！

目次

- クリスマスの驚くべき恵み……黛 睦子……1
- クリスマス霊想、神学委員会、IWF 理事会……2
- 教団運営委員会、国内教会局、関東壮年部大会……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- カナ講演会、後援会世話人会、沖縄聖会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

クリスマスの 霊想 主が現代に来られたら



WGM宣教師
ザック・マッツ

最近、私は、デューラーの「エジプトからの脱出」という木版画のことを思い巡らしていました。その作品はマタイの福音書の二章の、ヨセフとマリヤと主イエスがヘロデ王の手から逃れてエジプトに行ったときのことをモチーフとして描かれたものです。その絵は古代のエジプトのようではありません。その絵はまるで、ヨセフとマリヤがヨーロッパの家畜に乗り、ヨーロッパの森の中を進んでいるように見えます。二人はヨーロッパ人が着る服を着ています。デューラーはエジプトのあちこちを巡り、グーゲル(インターネットの検索サイト)でエジプトの写真を見ることができなかったと私は思います。ですから、彼は、聖書の物語を彼の生きた世界、ヨーロッパに置き換えたのです。私は自問しました。「ヨセフとマリヤ、そして赤ちゃんイエスが、ヘロデの危険から逃れる旅を私が描くとしたら、どここの風景を

思っ て絵を描くだろうか」と。きっと彼のように、クリスマス物語を私が今生きている世界のどこかに置き換えたいと思います。では聖家族はどこに現れるでしょうか。

マタイは、(マタイの)福音書で様々な方法によってイエス様が救い主で、まことの神であると語っています。同時にマタイを通してイエス様は、時の政治家によって、こちらから、どこか別の地に強制移動をさせられるような、私たちの社会の最も底のようなどころに現れることを語っているように思います。イエス様は避難民であって、同時に王です。避難民が王様?そんなことが(避難民が王様で)ありえるのでしょうか。イエス様の物語は、無力な立場の所から始まるのです。

もし、私が聖家族を今日の世界のどのあたりに設定して描くと思いますか。恐らく私は、鉄条網に囲まれたシリアの疲れ切った人たちであふれる難民キャンプに、ヨセフとマリヤ、イエス様が避難している絵を描くかも知れません。あるいは、人にあふれた舟が、アフリカからヨーロッパに向けて大海を北進している人たちの中に聖家族を描くかも知れませんが、メキシコから自由を求めてアメリカに向かつて移動している人たちの列の中に描くかも知れません。もしあなたが皆さんの住む世界で、イエス様の絵を描くとしたら、どこに描くでしょうか。

神学・宣教研究委員会から

神学部と聖書部の 最近の活動状況

委員長 蔦田崇志

ここ数年間、神学・宣教研究委員会の神学部と聖書部は、合同で私たちの聖書観について学びを重ねてきました。新改訳聖書の大改訂もありましたので、これを機に私たちの群れが重んじてきた「聖書が誤りなき神の言葉である」との信仰告白に注目しております。論集も2巻に分け、より多くの先生方に協力を頂き、様々な観点から確認作業を継続しています。次の年を越えて下巻をお届けできると思います。

前回の論集では、私たちの聖書観について歴史的な流れを振り返りながら論じてきました。目下神学研究委員会では、今現在私たちが告白する聖書信仰について、聖書学的に、そして神学的に分析を重ねています。二十一世紀に入り、前世紀のモダニズムに対して世相でも大きな疑念が投げかけられ、客観性や絶対性への現代的疑念が投げかけられる中、聖書が誤りなき神のことばであると変わらぬに確信をもって告白できる根拠や、その告白の意味するところがさらに深く掘り下げることができれば幸いに思います。

秋のIWF理事会

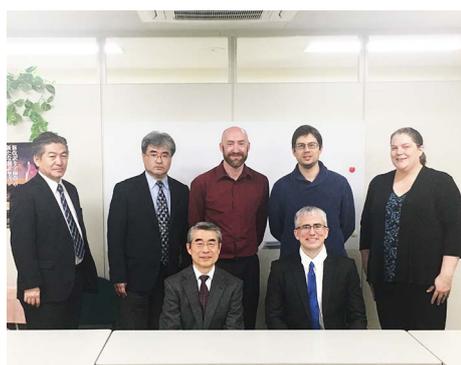
宣教の情熱を共有

宣教師の働きを紹介します

神戸教会 岩上祝仁

アン教会ではロビン宣教師は名古屋教会の会堂建築のために教会員のところからルームシェアをしながらマンガ・ミニストリーの新しい取り組みを始めています。アンドレア宣教師は京都西教会の近くでコーヒーショップ・ミニストリーを始めるために司法書士の助けを借りながら法律上の課題に取り組む、新しいミニストリーの準備を着々と進めています。

IWF基金を用いて宣教師の先生方を派遣する働きも、昨年度4教会が応募してくださりました。すでに来年度も1教会が応募してくださっています。在日宣教師の先生方との良き協力関係により、イムマヌエル教会の日本伝道がさらに前進しますように。ぜひ在日宣教師の先生方を教区や教会でお招きくださり、福音宣教の働きのために一緒に取り組んで参りましょう。そのために宣教師の先生方は母国を離れ日本に来てくださっているのですから。



11月13日(火) お昼からIWFの会議が行われました。IWFはイムマヌエルとワールド・ゴスペル・ミッションそしてウエスレアン教会(グローバル・パートナー)の3団体による連盟です。IWFの理事会は協力の態勢を整えることを目的としています。今回は、WGMからはザック・マッツ宣教師、ウエスレアン教会からはティム・ギャレットアジア地区ディレクター、アンドレア・スワウトアウト宣教師、ロビン・ホワイト宣教師、イムマヌエルからは内山勝師、河村從彦師、岩上祝仁が出席しました。梅田登志枝師は教会の葬儀のために欠席でした。

各宣教師の動向は、WGMではザック宣教師は各地の聖会でご奉仕をされました。ホリー宣教師は宣教報告のために帰国中です。来年6月に来日予定。ブランドン宣教師は宣教報告を終えて、ビザの発給を待っているところです。1月には来日の予定です。ウエスレ

教団運営委員会から……

年會に向けて

準備が始まります

広報 大兼久芳規



今年最後の教団運営委員会は、11月5日～6日に、年會の備えを中心に行われました。

内山代表よりネヘミヤ八章から「主を喜ぶことは、あなたがたの力」、来年の年會は「喜びにあふれる教會づくり」の一点を目標に行われることが示されました。教會と私たちの原動力がどこにあるのか。「主に喜ばれ、主を喜ぶ」という相互の「喜び」が私たちの中心にある時、教會に前進をもたらします。そのような次年度とさせていただきます。

【国内教會局】

新浜教會は8月に會堂移転をし、行徳駅前教會として9月からスタートしました。沼津教會では、来春のシオン教會との合併に向けての準備中です。各地での地震、台風の影響がありました。補修も進みつつあり、教団からのお見舞いも感謝します。

【世界宣教局】

今年も宣教DVDが用いられました。コイン献金、宣教聖日への

献金も、よろしくお願い致します。来年8月27～9月5日、ザンビア宣教訪問団(団長Ⅱ岩上頼子師)医療に関心のある方も募集します。

【教育局】

生涯学習課では、来年年會前(3月4～5日)に、若手牧師研修會を開催予定。次年度、女性牧師(特に牧師夫人)のためのリフレッシュセミナー(テーマ「説教」)を開催予定。そのために女性牧師部のご協力を頂く方向で検討中。

青少年部としては、年末BTCリトリート(12月27～29日)、とにキャンフェスティバル(東北3月26日、関東3月28日)、西日本ではCamp2019(細田師、4月30日～5月1日)、スタッフトレーニング・キャンプ(5月5～6日)、とにキャン(安藤理恵子師、8月13～16日)等が予定されています。11月から「福音に生きる教會の讚美」開始です。

【信徒局】

各地の聖會・教区会で信徒局の方々に、働きを紹介できました。「今後も先生方に代わり、信徒にできることがあれば、主の働きに加わらせていただきます。」との思いに励まされています。

関東4教区では、神学院後援會世話人會(10月27日)が持たしました。
【年會】明年3月5日～7日
年會準備祈禱會(2月4日)

Ⅱ小川宣嗣師

年會聖會Ⅰ内山勝代表

聖會Ⅱ梅田登志枝師

聖會ⅢⅡ岩上祝仁師

国内教會局運営委員会から

年會に向かう歩みの中で 近隣・地域教會へ 協力の手を伸べ

国内教會局長 岩上祝仁

11月4日(月)に国内教會局會議が本部で行われました。秋のB A主事會議を越えて、また教区會なども終えての會議でした。今回、来年度の伝道サポートシステムについての検討がなされ、5教會の伝道サポートシステムの計画が承認されました。今回の特徴としては、従来の伝道の枠を越えて地域の學校との連携をとりながらのプログラムなど、積極的な伝道の取り組みが見られたことでした。この伝道サポートシステムの申請の中で教會HPの開設への援助というものがありません。これは一教會だけの伝道サポートシステムというよりは教団的な伝道の働きを取り組みとして発展的に展開するように現在準備されています。

各ブロックからの報告を受けながら、今後加速する牧師の高齢化という切迫した状況にどのように対処して行くのか、具体的な事例を分かち合い、話し合いがなされました。教育局や女性牧師部と連携して来年度中に関西で女性牧師研修會を開催するため、その準備を始めることも確認されました。

関東4教区合同壮年部大会

牧師と信徒の協調体制 信徒局創設の年に

11月3日(祝日・土)

千葉教會 池田光重

11月3日(祝、土)中目黒教會において関東4教区合同壮年部大会が開催されました。世の中は文化の日、秋晴れの天候の下、関東4教区の牧師、信徒合わせて42名の方が集っていただきました。

東京教区壮年部担当の梅田師より、開會の挨拶とお祈りをもってスタートしました。今回の壮年部大会のテーマは、今年次總會期で信徒局が発足したことから「牧師と信徒の協調体制を目指して」ということに決まり、発題を信徒局長の斎藤純雄兄、メッセージを関東南ブロックアドバイザーの田中進師に担っていただきました。

メッセージは、ガラテヤ五章13節からのみ言葉を中心に「牧師と信徒の協働」に関して、ご自身の証しを交えて語っていただき、主の御心であることを覚ええました。

発題者の斎藤純雄局長からは、今總會で発足した「信徒局」創設の背景、体制、今後の方針等について詳しく説明がなされました。

教団、教會を取りまく様々な課題に対応するためには、これからも一層牧師と信徒の協働が必要であり、また信徒側の体制も、男性女性の枠を取り払った体制を目指すことが必要ではないかとの提案もなされました。

発題の後での質疑応答の際に、「牧師の給与」に関しての提言がなされ、続いて持たれたグループディスカッション(7つのグループに分かれて)の中でもいくつかのグループで取り上げられました。

教會を取り巻く様々な課題に牧師と信徒が一致して、重荷を担い合いながら対応していくことは主の御心に沿ったものであることを参加者一同改めて確信されたことと思います。締め括りは本大會の會計担当高津教會、長岡淳三兄の祈りをもって閉じられました。

また本大會の運営に際して、中目黒教會はじめ近隣教會の女性信徒の方々のご奉仕に与りましたこと、深く感謝申し上げます。



国内教会局から

教会建設の務めに
待降節の恵み

パウロはコリントの聖徒
たちにこう書き送ってい
ます。「私があなたがたに
宣べ伝えた福音を、改めて
知らせます」(一コリント
一五・一)。改めて語るには
様々な理由があるでしょう。
福音から逸脱する危険があ



れば修正をしなければなり
ません(ユダ3)。忘れっ
ぱいお互いには復唱が必要
不可欠でしょう。
しかし、そのような必要
に駆られなくとも、福音そ
のものが豊かで、またその
素晴らしさ故に幾度でも語
られ、そのたびに新たな深
みに進み、あるいは鮮烈な
光に照らされ、人々に希望
を与え、生きる力をもたら

す、そのような「改めて知
らせます」という世界があ
るのではないのでしょうか。
今年もクリスマス前の季節
が訪れました。福音書の冒
頭部から、イザヤ書から、
あるいはパウロの書簡から
親しまれてきた聖句が開か
れ、福音が説き明かされま
す。今年ならではの輝きも
もって福音がこの世に届き
ますように。(葛田崇志)

■ブラジルで教会の献金盗難、総額94万円
10月16日深夜、ブラジルサンパウロ州ヴァーレ・ド・リベイラ地方で、カトリック教会3カ所から「十分の一献金」が盗まれた。この地域の小教区を担当するレジストロ市(サンパウロ市から1881km)司教区によると、被害総額は3万レアル(約94万円)になるといふ。現地の邦字紙『サンパウロ新聞』によると、3教会は、エルドラド市とセツテ・パラス市、そしてパレケラーアス市の教会で、イグアツペ市の教会でも盗難未遂事件が起きている。全ての事件において同様の手口が用いられており、ドアノブが鋸でカットされたり、ペンチで鍵が壊されたり、金庫が破られたという。民事警察は、犯人はこの種の犯罪で経験を積んでおり、犯行に至る前に小教区の様子を事前に観察していたと推測している。
エルドラド市のアッシス司祭

害される
米紙『ワシントン・ポスト』によると、カメルーンに派遣されていた米国人宣教師が10月30日、妻と子どもの目の前で射殺された。殺害されたのは8人の子を持つ



海外トピックス

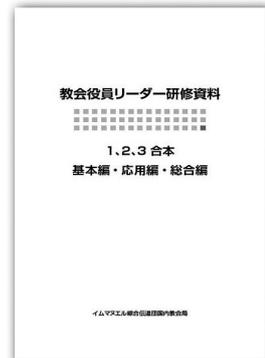
チャールズ・ウエスコ宣教師(43)。インディアナ州ウォーソーにある『ヒリーバーズ・バプテスト教会』から、10月初めにカメルーンに派遣されたばかりだった。
同教会のハルヤマン担任牧師によると、ウエスコ一家はカメルーン北西部バメンダに滞在していた。この地域は、カメルーンでは少数派の「英語話者」が多い北西部と南西部の2州で『南カメルーン連邦共和国』の名で分離独立を求めている。南カメルーンの分離独立運動の背景にはフランス語話者の方が政治などを中心的に支配して有利にある事や経済格差への不満がある。別の宣教師と買い物に出かけていたときに、発砲された。AFP通信によると、犯行は4人の「テロリスト」による。アソモ国防相が犯人らを「テロリスト」と呼んでいるのは、カメルーン軍が事件の背後にあるという英語話者の分離主義者らの主張に対応したものである。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



役員リーダー研修会資料
二部を合本に
基礎編・応用編・総合編
教区で、教会で一緒に学ぼう
国内教会局編集
出版事業部扱い
定価四〇〇円



トのからだ」である教会を建徳的に作り上げてゆくのです。
今まで役員・リーダー研修会は回数を重ねてきました。牧師の高齢化に起因する牧師不足、そして常住牧師がない教会が増えつつある中で、信徒と牧師の協働によって教会を支えることになってゆきます。もう既に幾つかの教会では信徒の方々を中心に運営がなされています。そのような状況だからこそもう一度この資料に目を通して頂ければと思います。
第一巻「基礎編」では教会とは、牧師とは、役員とは何かを学びます。教会を建て上げるために必要な信仰の姿勢、霊的資質、運営の基本などを考えます。
第二巻は応用編で、教会の具体的な課題と、それにどのように取り組むのかを考えます。後半では、「試されて強くなる教会」ということで、牧師の転任、疾病などで非常事態に陥ったとき、牧師が退職するときなど、具体的な事例を上げて、牧師と信徒が手を携えて訓練を乗り越える道を探ります。
第三巻は発展篇として、信頼関係と伝道に焦点を当てます。牧師と信徒、信徒同士の関係で何より大切なのは信頼関係です。建徳的な信頼関係を築くための基本的な事柄を扱っています。その信頼関係に基づいて伝道のわざに励んでいくことについても学びます。
この資料が教会の建て上げのために用いられるなら、これに勝る喜びはありません。(岩上祝仁)

カナ・フェロシップ講演会 恋愛・結婚について皆で 学ぶ貴重な機会でした



中目黒教会 馬場満子

11月17日、第5回カナ・フェロシップは同盟基督教団習志野台教会の丸山園子先生をお招きして「恋愛・結婚」をテーマに大胆に分かり易く語って頂きました。今回はセミナーのみで、出会いと交わりタイムはありませんでしたが、多くの方々が聞きに来てくださり、質問も活発になされました。

とても大切な事なのに、なぜかあまり教会で語られない恋愛と結婚の具体的かつ実践的なお話は、本当に結婚前の方々のみならず全教員に聴いて頂きたいお話でした。実際に結婚後何年も経っているご夫妻が、自分たちの問題として捉えることができたと言っておられました。

恋と愛の違い、恋人と夫婦の違い、男と女の違い、そして違いのある者同士が、お互いを認め合い受け入れ合って生活していく(生きていく)ことの大切さ、それらは世の価値感とは違った聖書の示す本来の恋や愛の姿、神様が私たち注いでくださる眼差しとはど



ういうものかをその中から学び取ることのできるユニークなセミナーでした。真剣に聞いておられる会衆の皆さんから他では教えてくれない聖書の示す恋愛や結婚の在り方に対する関心の高さを伺い知ることができました。

また、教会と青年達への提言として、次世代に信仰を継承していく大切な使命という認識を持って、結婚の問題を教会で取り上げて頂きたい事。独身者、未婚者への配慮の必要性、結婚にあこがれと期待を持つ事。正しい性の知識を身に着ける事。そして未婚者には自分とまず向き合い、「私にはこんな人が必要です」と祈ることから始めようとお勧めを頂きました。もっと続きを伺いたいという思いで時間になりました。次回は6月に再び水谷潔先生をお迎えしてのカナフェロシップになります。今から期待してご参加ください。

聖宣神学院後援会から……

関東4教区世話人会開催 祈りから始まった働き



後援会長 中山朝雄

BTC後援会設立後初めての世話人会が関東4教区世話人16名を迎えて、旧女子寮から改修された「ベテルハウス」で開催されました。会の初めに各教会で祈りの先兵として選任された世話人と後援会スタッフの自己紹介がユーモアを交えながら初めての会合と思えないほど和やかな内に行われました。河村徒彦聖宣神学院長より、ヨシユア記二二章27節から後援会の働きは、今その成果は判らないが次の世代への信仰の証しであると励ましのメッセージをいただき、その後、私より後援会の設立の源流は2014年から始まった教団創立70周年記念事業とBTCのための「BTC祈り会」にあったと示されている旨



のお証しをさせていただきました。また世話人の奉仕については「世話人マニュアル」に沿って基本的な奉仕内容の再確認を致しました。そして、現在のBTCをより深く知るために「BTCの紹介」のスライドを観てキャンパスの変身ぶりも知ることができ、また田中進BTCメンテナンクス委員長からは、今後の改修工事状況について説明を受けた後全員で爽やかな秋晴れの中、伐採され明るくなったキャンパス全体を見せていただきました。

最後に懇親会を持ち各教会での具体的な奉仕内容や課題等について情報交換を行い、それぞれ多くの示唆をいただき大変有意義な世話人会を開催できましたこと心より感謝しております。参加された世話人からは、実際にBTCを見てより一層祈りに力が沸きますと頼もしい反応も頂きました。全国の世話人の祈りの輪によって主の御手が動かされることを期待し、目を覚まして祈り続けていきたいと思えます。(エペソ六・18)

今後は関東以外での地区別世話人会を計画しておりますので、これからの活動のためにもお祈りのご協力を宜しくお願ひ致します。

最後に懇親会を持ち各教会での具体的な奉仕内容や課題等について情報交換を行い、それぞれ多くの示唆をいただき大変有意義な世話人会を開催できましたこと心より感謝しております。参加された世話人からは、実際にBTCを見てより一層祈りに力が沸きますと頼もしい反応も頂きました。全国の世話人の祈りの輪によって主の御手が動かされることを期待し、目を覚まして祈り続けていきたいと思えます。(エペソ六・18)

今後は関東以外での地区別世話人会を計画しておりますので、これからの活動のためにもお祈りのご協力を宜しくお願ひ致します。



沖縄聖会は「キリストのリアリティ」をテーマに開催

沖縄聖会の報告

主は生きておられる 主のリアリティに 触れる信仰を

那覇教会 今井隆司

まだまだ半袖でクーラーが必要な中、沖縄聖会が11月3日(土)、4日(日)と那覇教会を会場に持たれました。講師は久留米教会の吉村和記先生。「キリストのリアリティ……、主は今、生きておられる」のテーマで3回の聖会が持たれ、延べ出席者は131名になりました。キリストのリアリティに触れて音楽をささげ、主に全てを明け渡された先生ご自身の実体験がベースとなってメッセージが語られました。「主は生きておられる」事実が、聴衆に深く届けられる機会となった聖会でした。

巻頭言

私たちのために祈ってください



世界宣教局
野田 禎

「最後に兄弟たち、私たちのために祈ってください。」

(Ⅱテサロニケ三章一節)

聖書の中に「互いに」という言葉がたくさん書かれています。「互いに」に続く言葉が、愛し合うこ



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

と、自分よりもまさったものと思うこと、祈ること……。教会はどのように互いに支え合って、愛の内に成長していくのでしょうか。使徒パウロは自分のことを、復活したイエス様に任命された使徒と言っています。特に彼は、異邦人に神の言葉を伝え、教会を作り、成長できるように見守る特別な働きを委ねられていました。パウロの祈りにより、多くの人が祝福を受け、勇気づけられ、励まされたことでしょうか。ところが、ここではパウロが、「私たちのために祈ってください。」と言っているのです。このことは、幸いな信頼関係があるから言えることです。そしてそのことは聞いた人々は、必ず祈ってくれたことでしょうか。エリザベス・キューブラー・ロ

スは多くの人の死を看取り、寄り添った人ですが、彼女は介護を受ける立場になったときにこう言っています。「長い間、他者に愛をあたえてきたわたしは、人から愛を受け取る訓練ができていないの。」真実な言葉だと思えます。パウロは、長い間、多くの人に仕え、愛を与え、祝福の祈りをして来た人ですが、自分のために祈りをお願いするのにも躊躇を覚えたでしょうか。おそらく、人からお祈りをしてくださいと言う訓練ができていない人だったのでしょうか。ですから、はっきりと「私たちのために祈ってください」と言って祈りを期待していました。では、なぜ互いに祈り合うことが必要なのでしょう。それは、この伝道は、霊的な戦いだからです。この世の神(Ⅱコリント四・4)と言われる「悪魔」(エペソ六・11)は、何とかして、神に愛されている人々を、永遠の滅びに道連れにしようとしています。そして、福音を伝えるものたちに攻撃を加えようとしています。ですから、互いに、神に祈り、戦うことがどうしても必要なのです。

「祝福に満ちた神の、栄光の福音によれば、そうなのであって私はその福音を委ねられたのです。」(Ⅰテモテ一・11)

10月の第一週はリバイバル週間で卒業生でもあり、私たちの教え子でもある視覚障害者のジョイス・ロペス先生を講師として招き3日間にわたり3回の説教をして頂きました。ジョイス先生は現在マニラにある視覚障害者たちのための学校の働きに携わり活躍しています。フィリピンではまだ社会にあまり認知されていない視覚障害者たちの過酷な現状も吐露してくださいました。発展途上国における障害者への働きがもつと必要とされていると感じました。

今月はルソン島域のウエスレアン教会教職者会議がターラックで開催されました。大学の教授陣はこのセミナーに参加するためにこの週は休講となりました。私たちが参加を願っていましたが、常喜は火曜日のチャペルの御用と諸方で

豊田常喜・恭子*2018年11月6日

参加できず、恭子がフェローシップで審査員を任されていたので1日目の夜だけ出席しました。最終日に、同じく学校に居残っていたボン・ワギ先生が突然、我が家を訪れ、シニプシップにあるコーディレラ校の校長ロニー先生の車が故障して高速道路で助けを必要としている、と緊急事態を知らせてください、宣教車でボン先生と常喜で出動しました。途中、故障の原因となったラジエターのホースを購入し、目的地に到着。炎天下の中でロニー先生と奥様ジュディス先生とミラー先生と奥様メリロス先生の4人が待ちわびていました。道路警察も駆け付けていました。ただ、私たちの到着を待ち、修理が終わる立ち去るのを待っているだけでした。購入したホースのサイズが合いませんでしたが、器用なロニー先生とボン先生は古い部品とつなぎ合わせ応急処置をし、とりあえずその場を凌ぐことができました。それから、高速道路を出てロザリスにあるお店で適切な部品を購入し、10分もしないで修理は完了。ボン先生と車中で、この時のために、私たちはセミナーに行かずに居残っていたのかもねと冗談を言いながら帰途に着きました。その晩には、パラワン島からの若い牧師たちがセミナーを終え、ロザリスに立ち寄ってくださいました。みんな私たちの教え子で、近況や思い出話に花が咲き楽しい、感謝な一時を過ごすことができました。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年11月8日

ご降誕の主の御名を心より賛美します。10、11月は一年の間で、朝夕の寒暖差の一番大きな時期を迎えました。朝夕と日中の気温差が20度を越える日もあります。

10月に、月一度台中から奉仕に行っている台南日本語礼拝に、年配の愛児姉方が出席してくださいました。日本語世代も80代後半になり、流ちょうな日本語を話せる世代は高齢化していますが、台南の礼拝には、毎月、94歳をはじめとして、複数の信仰の勇者が励んでおられます。今月は、その交わりの中に、百歳になる姉姉が加わってくださいました。

台中では、10月末に、ことしも福音歌手の森祐理姉が来台され、台湾東部から南部、そして中部から北部へと遠路移動しながら、連日の音楽集会が開催され、各地で主のなされた恵みが賛美の調べと共に証しされました。

台中市内の教会で開催された集会に、有志の愛児姉方と共に出席

するときが与えられ、日本に行かれた〇兄も通訳者として同行・奉仕され、久しぶりの再会と語らいに花が咲きました。

9月の学び会の余波で、ある求道中の方がキリスト教と信仰に戸惑いと理解の相違、違和感を覚えられ、教会から足が遠のいています。愛児姉方が折あるごとに心を配り、励まし、支えて下さっています。自分の考えていた信仰と聖書の教えの違い、人間的な思いと神様の救いの計画の違いを思い知ったということでした。静かに祈り、声を掛け励ましながら、主の愛が心に届き、明確な救いの恵みに、導かれますよう、祈りつつ進んでいます。個別の信仰の学び会(志道者会)も並行開催され、クリスマスに向かっていきます。



11月25日には、深川教会奉仕団の第三弾として、二名の兄弟方をお迎えしての特集です。主の恵みを期待しつつ、祈りつつ待ち望んでいます。



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃*2018年11月1日

この一年間の働きの最後となる宣教旅行に出発する時を迎えました。この報告をお読み頂いている頃はカンボジアでの働きに埋没しておりますことを覚えて、カンボジアの救霊戦と自立教会の建設、特に12月に完成の建設の成就を期待して祈っている私達を祷告の裡に加えて頂けましたら幸いです。

お祈りをお願いしておりましたテス夫人の職場の移動は主の御心ではなかったのでしょうか、叶いませんまま11月を迎えました。ヴァンデイ師にとっては試練の日々が続きますので、彼の信仰が弱ることなく、何事があっても「しかし私達はキリストを宣べ伝える」(1コリント一章23節)スピリットが変わることなきよう信じてお祈りの支援を引き続き宜しくお願い致します。

此度の私の旅は11月23日〜12月21日、4週間に亘る滞在となります。それは毎年一年に一度、香港JCFからの宣教隊が来訪されま

すが、昨年から私も彼らの活動に合流するようになりました。記憶に残っている方もあられませんが、今年1月号に報告したシエムリアップ地区の太湖の浮島に住む漁師により設立した自立教会を視察し、彼らの宣教活動に加わりましたが、今年もこの地区の教会を訪問されます。そしてその後でプノンペン市内のKCCの働きを見たいとの希望が届き、私の同行が必要となりましたため、4週間の滞在と決めました。彼らとの交わりに聖霊のご臨在をお祈り下さい。本部他3つの建物が帰日前に完成するのを見届けられ、必要な内装、家具類等の設置が出来ますようにと祈りつつ出かけてまいります。クリスマス前に帰国する事ですが健康も支えられ、霊肉共に上よりの力により奉仕に専念できますよう、お祈りを頂きたく、お願いと共に、皆様方の祝福をお祈り申し上げております。写真は先回の報告にて触れました伝道者のセミナーの様子です。引き続き、主の勝利をお祈りください。



巡回のため、お祈り感謝申し上げます。看護関係のセミナー受講も続いています。9月は東関東聖会で教えて頂いた、4・14運動のセミナー出席を許されました。4歳から14歳までの間に信仰をもつ重要性に着目した統計結果を踏まえての運動ということですが、「わが小羊を養え」と言われたことを思い起こさせるとき、心燃やされ励まされた時となりました。



KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子*2018年11月9日

巡回中の某教会から教えて頂いた、樋野興夫医師の「がん哲学外来」の名称で、癌の患者や家族が、普段の場ではなかなか聞けないことを分かち合う場所を作る運動をされているクリスチャン・ドクター)出席も許されました。癌に限らず、忙しさや規模を増すテヌエックでも、このように耳を傾ける場所と機会の確保がますます重要になってくるだろうと思いつつ参加でした。

10月は4・14運動のセミナー時

に頂いた情報から、LGBT関連のセミナーにも参加がゆるされました。一人ひとりに向き合うことについてはケニアの教会とエイズとの関わりの変遷を想起させ、また全体の大きな流れや法的・政治的なプレッシャーの流れは、「平等」の名のもとに、キリスト教の活動に影響が及んでいる国々を想起させました。祈り深く進みたいと願っております。

9月の巡回は、金町のフィリピン人中心の集い(CWMC)での英語の奉仕が公的なものでした。10月は草津教会、中目黒教会の祈祷会、船橋教会のおちば会、盛岡教会に伺い、11月は豊中教会に住まわせていただき、近畿地方を中心に巡回、東海方面にも伺ってからミシオンハウスに戻ります。

巡回中「祈りのネットワーク」に掲載して頂いている「テヌウェクトドットコム」のアドレスにメールを送ったが戻ってきた、というお話を聞きました。インターネットが使えない時でも取り込んでおいたメールが読めるようにという理由で設定したアドレスですが、ここ数年調子が悪く、特にわたしが帰国する頃からの不具合が今も継続していて、現在全く使えない、という連絡がケニア側から来ています。ご不便をおかけして申し訳ありませんが、もう一つ掲載されている「ヤフードットコム」の方のアドレスの方にメールの送信をお願い致します。インターネットは問題なく使えています。■



ザンビアの10月は乾燥した暑い夏が続いていますが、月の後半には雨季の始まりを感じさせる雲が出始め、北部の方では本格的な雨が降った日もあったようです。月の前半はスタッフの人数が少なく、後半には新人ナースの夜勤指導で夜の呼び出しも多く、忙しい日が続きました。中には若年産婦14歳の高リスク分娩があり、産後出血がやや多く、緊張したケースでしたが、必要な対応ができ、母子ともに元気に退院が許され感謝でした。その他にも飛び込み出産の未熟児ケースや、小児の重症気管支炎、成人男性の脳損傷などがあり、クリニックで対応しきれないケースで救急車を呼ぶ日が続きました。その後は、クリニックは落ち着きを取り戻しました。

10月8〜10日にジェンボにある聖書大学でPWCの牧師たちのリトリートがあり、その講師としてアメリカから各ウエスレアン大学の総指導者を担当する方と、アフリカのある国の聖書学校の講師をしている宣教師が呼ばれており、宿泊施設として宣教師館のゲストルームを提供しました。彼らとは以前会ったことがありましたが、ゆっくりとした交わりのときを持ったことがなく、今回短い時でしたが、少し交わりのときを持つことが許されました。このようにして、宣教師館がいろいろな方を迎える場所として用いられていること感謝しています。これまでも、梅田局長を含め、様々な方をお迎えて、宿泊施設として利用され、改めてこの宣教師館が神様のために用いられていること見せていただいています。

9月に持たれた会議でモノ牧師の移動がきまり、その引き継ぎが始まっています。モノ師は地区代表を14年間勤め、IGMのジェンボ宣教師館の建設地の決定にも多くの協力をしてくださった方です。私がザンビアに赴任した2012年からもずっとジェンボにおられたため、モノ師がこの地を離れると決まった際には少し戸惑いましたが、神様がこのことにも計画を持っておられると感じました。それから、モノ師と新地区代表と引渡しの手続きが始まり、住居を含め最終的に10月22日に新地区代表へと引き渡されました。

新地区代表を迎え、神様がこれからこのジェンボの地において新地区代表を迎えどのような計画を持っておられるのか期待をします。■

■会計報告10月分
宣教師金 一、九二五、三七五円
月平均 一、七九八、四四〇円

■お祈りの課題
ケニア(鳥田就子)
◆長距離移動と英語での奉仕、巡回奉仕が守られた感謝
◆巡回の奉仕が祝されるように
◆テヌウェク病院の働き人(ルカ一〇・二)特に麻酔科と検査室の必要が満たされますように
ザンビア(富澤)
◆霊肉が支えられますように
◆車が守られますように
◆建築の上より上よりの助けがありますように

◆現在、求道中の方の戸惑いが取り除かれ、明確な救いの信仰に導かれますように
◆家族の健康とみ守りのため。子どもたちの将来の導きのため
◆複雑な極東アジアの国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定しますように。11月24日市政選挙
香港(鹿島)
◆今年のクリスマスへ向けての歩みが祝され、求道者が与えられるように
◆広州(番禺)で新しい出会いが与えられた感謝とともに良きお証が出来るように
◆日本と中国との関係が平和に保たれるように
カンボジア(鳥田縁乃)
◆ヴァンディ師一家の献身の生涯が全伝道者の模範となり、ダビデ君の健康が改善しご両親の奉仕がさらに祝されるように
◆12月完成の本部他3つの建物が予定通り完成をみる事ができるように
◆四週間に亘る鳥田の滞在が主を宣べ伝える働きの前進の時となるように
グローバルユースミニストリー(鳥田康毅・由理)
◆働きに相応しい活動拠点と宣教師の住居が備えられるように
◆定期集会「バイブルタイム」に集う青年たちが救われ、リーダーとして成長できるように
◆信仰経済に立つGYMの必要が満たされ続けるように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため
台湾(平瀬)
◆健康トラブルが多発する中、主に強められ支えられますように
◆台南日本語礼拝、台中教会に、新しい方々継続して来会する方が与えられ続けますように

◆聖書大学での神学教育の奉仕のため。常喜は『タニエル書・黙示録』と『ウエスレー神学』を教えています
◆学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように
◆祈りのネットワークの決定にも多くの協力をしてくださった方です。私がザンビアに赴任した2012年からもずっとジェンボにおられたため、モノ師がこの地を離れると決まった際には少し戸惑いましたが、神様がこのことにも計画を持っておられると感じました。それから、モノ師と新地区代表と引渡しの手続きが始まり、住居を含め最終的に10月22日に新地区代表へと引き渡されました。

◆新地区代表を迎え、神様がこれからこのジェンボの地において新地区代表を迎えどのような計画を持っておられるのか期待をします。■

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

アンスポークン・リクエスト

院長 ● 河村 從彦

「私のためにも、……祈ってください」(エペソ六・19)

祈ってほしい。まだ若い頃でしたが、ある問題に直面したとき心底そう思いました。「祈ってます」というのは簡単ですが、「祈ってください」とお願いするのは少し勇気が要ります。どこまで言えばよいかも気になります。「お祈りをお願いするのだから、内容まできちんとお知らせしないのも失礼かもしれないし」などと感じないでもありません。

手前味噌で恐縮ですが、海外で学んだときに出席していた教会の週半ばの祈禱会、夜でもあり少人

数でした。ある日、「祈ってほしい課題がありますか」という先生の促しに応じて、一人の方が手を上げました。「アンスポークン・リクエストがあります」。具体的

なことは言えないけれども祈ってほしい、心底そう思っているのだと思います。言ってもかまわない内容であれば、「アンスポークン」にする必要はありません。

英語では「Unspoken Request」です。ことばに出さない、あるいは出せないということですが、「祈りをお願いする以上、内容まできちんとお知らせするのが礼儀」などという遠慮は互いになし。他の

出席者たちは、「○○さんのアンスポークン・リクエストに答えてください」と祈りました。

課題をことばに出して祈るの意味があります。しかし、かりに内容をことばで表現しなくても、神さまは全部をご存じという信仰に立って祈ることもできます。人のことであれば知らないほうがよい課題もあります。人を色眼鏡で見ないで済みます。「アンスポークン」な課題を気兼ねなくお願いしあっていたあの教会は、今思うと見えない部分が豊かでいきいきとしていたのかもしれない。

一年をしめくくるとき、サポーターの皆さまは神学院の「アンスポークン」な課題のために祈ってくださいと思ったと思います。本当にありがとうございます。これからも今の神学院のためにぜひ祈っていただきたいと思えます。



神学エッセー

「新約神学」という世界

① 聖書の真意を汲み取る



蔦田崇志

今年、暫く振りに担当した授業の科目名。小生が学生の時にはまだ開講されていなかった。実際、新約神学(または聖書神学)という学問が始まったのも意外に最近のこと。十八世紀後半ガブラーという学者が発表した論文が契機となり、瞬く間に世界各地の神学教育機関で学ばれるようになる。

基本的な姿勢は「聖書をあらゆるしがらみから自由になって、聖書そのものを学ぶべき」というもの。色眼鏡を外して読むときに初めて読者は聖書記者の意図したことを汲み取ることができる。そのようにして得た真理を整理して、聖書記者たちが構築していた神学を再発見するのがこの学問の目標。靈感された新約聖書の記者たちは何も徒然なるままに筆を走らせたのではなく、それが福音書であり、書簡であり、黙示文学であり、神学的な骨組みの上に記述されたもの。マタイやヨハネ、パウロやペテロは各々自分なりの福音理解を抱いて、初代教会の聖徒たちを

文書によって奨励し、指導した。さて、ここで極論が少なくとも2つ生じる。一つは、聖書は「神のことば」なのだから、人の神学は注目に及ばず、という見方。これは「神のことば」の意義を極端に狭めてしまったために、聖書記者たちの靈感に対する応答を無視してしまうときに至る結論。私たちは例えば靈感についても機械靈感を否定する。聖書各書の記述は、記者の人格を無視した執筆ではなかった。聖書(新約)神学は夫々の記者の信仰と神学を生き生きと再現させることを目指している。

今ひとつの極論は、新約の記者たちが自らの神学に照らして記述をしたというのなら、「新約神学」と称して、まるで新約聖書が一貫した神学を共有していると主張するのは人為的だ、とする考え方で、前者の反対の極論だと言える。パウロとペテロが相反する福音理解を持っていてもいいではないか、とまで言ってしまう。しかしこの思想は、聖書が神の御心を啓示した書であることを全く考慮に入れていない。そのような逸脱から守られるためにも「新約神学」は有益な学びとなる。『証し人は大勢だが福音は一つ』、これを示す術として新約神学は大いに用いられる。

新約聖書を読むときに私たちは、二千年前の生活や文化、風習等を考慮しながら理解するが、さらに記者たちの思想にまで光を照らすことが許されたら幸いである。

◆後期の学びの中で

オープンキャンパスの感謝

正規コース 秋田郁美

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」(ペリピ人二・13)

神学院を皆さんに知っていただくためのオープンキャンパスを今年も行うことができました。インマヌエルの色々な教会や、他教団の教会からも多数の方々に参加していただき、感謝いたします。

今年のコンセプトは「誰でも召命があれば来て、学ぶことのできる神学院」でした。現在神学院では、年齢も教団も様々な学生が、正規コースや修了者コース、聴講と形態も異なる中で学んでいます。ご病気を抱えながらご主人のサポートを受けて週一回のペースで学んでいる方もいます。ご本人にとっても受け入れる学校にとっても大変なチャレンジです。それでも主のお役に立ちたい、という献身の思いに主は応えて、学びの門を開いてくださるのです。

このテーマにそって案内のチラシも「トライ！神学院・私でも行っているの？」ももちろんです！というキャッチフレーズが全面に出

たものが作られました。これを見て、「私でも行っているのだ。」と思っただけの方もいました。三人の神学生の証を聞いて、さらにそれを確信していただけたのではないかと思います。

参加者の皆さんに喜んでいただけるように、当日も神学生の一人一人が自主的に働くことができました。今年は宿泊施設としてベテルハウスも備えられたこと、毎食の準備をしてくださるボランティアのご協力も感謝します。良いコンセプトのアイデアを与えてくださり、準備の段階から一人一人を用いてくださった主の御名をあげます。主が志を与えてくださるなら、トライ！です。

◆後期の学びの中で

備えられる恵みの糧

修了者コース 中尾敬一

2か月間の夏期実習を終え横浜に戻ったのが九月末、秋期集中講義、関東聖化大会、BTCオープンキャンパス、10月末からは後期の学びと新しい教会での実習。気が付けばもう12月です。前期と比べると3倍ほど時が早く過ぎていく気がします。

関東聖化大会では会場係が割り



当てられ奉仕をさせていただきました。会場入り口から席へ案内していただきました。ある方が私の名札を見て「中尾神学生ですか。つばさの証しを読んでどんな方かと思いつつ、お祈りしてました。ソフィさんの証しも読みました。」とわざわざ声をかけて来てくださいました。とても感動し励まされました。

認がなければ奉仕者になることはできません。神学院での準備期間は、一教会の承認が、全国の教会の承認へとなっていくステップなのだろうと思います。

これはとても神秘的で不思議な体験です。私はこれに対して何もすることがない(できない)からです。ただただ、神様が働いておられるのを眺めて感動しているだけなのです。講壇に立たせていただく度に与えられる思いは、この感動をお伝えしたいということだと思います。

◆聖宣神学院に導かれて

主の恵み

聴講生 藤井佳代子

主の恵みに感謝いたします。10月のオープン・キャンパスにて、献身の確信が与えられました。お証しをする際に、主が兄弟姉妹との道を交差して下さり、麗しいひと言ひと時が心の琴線に触れ、献身への思いが定まりました。神様の永遠を想う時、この世での旅路は一瞬、限られた時空でしか

いがゆえに、心と心の尊いふれ合いに感謝いたしました。神様が導いてくださった今までのことを思い巡らした時に、献身への道のりを再確認いたしました。神様に応答して献身の思いを胸に、仕事を辞める決心をした後、理想的と思える仕事のオフアワーが届いた時の葛藤を思い出しました。長年の学びと仕事の血と涙の結晶が全て報われると思えるような職場でした。しかし、対照的な働き場の選択肢を前に、献身の道を選んでいました。そして、神学院にて学ぶことが許された背景、過程を思い起こし、主に在る兄弟姉妹との対話を通して、神様が揺るぎないものとしてくださいました。

また、主に在って癒されつつあります。長い時を経て人格を塗り固められたものが崩れゆくのは怖くて心細いのですが、よみがえる辛い記憶に、一筋の御光りを買っていただき、幸いに変えていただくことを期待しています。また、茫然自失、無感覚の状態から、忘れかけていた感性が呼び起こされ、喜びに浸り愁いに沈むような、様々な感情や想いに戸惑いながらも、回復への道に前進しています。弱くて情けない自分を受け入れてくださる神様の無条件の愛を仰ぎ見て、主の恵みを朝ごとにいただき、皆様に祈られ支えられて、生かされている恵みに感謝いたします。次の一步を踏み出す力と勇気が与えられますように、引き続きお祈りいただければ幸いです。

私の神学生時代 素晴らしい嗣業の地 15期生●田中絃子



私は、第八次関西聖会でイエスの十字架の御愛に迫られ、「我に従え」の御声をきき「委ねて従いなば主は汝が道を祝し給わん」の賛美の中で献身を表明、その後エステル記四・14下の聖言で召命を確認しました。伝道者がどんなものであるか何も知らないまま、未熟な者が昭和38年、第15期生として入学を許されました。

その後伝道者として52年間守られたのは、唯主の憐みと聖徒方のお祈りと御指導の故と深く感謝しています。摂理の中に21年神学院生活(と同時に卒業後は丸ノ内、主都中央教会を兼牧)が許されました。神の器が作られる神学院で、規律ある生活の中で伝道の基礎を据えて頂いたことは、大きな喜びです。毎日祈りに始まり祈りに終わる生活の中で、炊事、掃除、学び、外出、何事にも事毎に祈りを以って為す敬虔な先輩の姿に触れ、神の前に歩む生活の訓練を頂きました。課題や心の問題を神の前にひとり出て注ぎ出して祈りました。これが伝道者生涯の大きな恵みとなりました。初代院長が国内外の

問題、神学院、教会と牧会、超教派の働きと幾重もの重責を抱えながら、うち続く戦い、ある時には失意気消沈する様な問題や山積する課題の中で、平静さを失わず若い神学生に生き生きと指導し続けておられる秘訣はどこにあるのか見つけていました。ある集会でモーセの生涯より「あごが出る様な戦いの中で神が信任して用いながら、さる器は、明確な霊的経験(救い、きよめ)を土台に、神様と深く交わるディシプリンに耐え貫いた器である」と語られました。朝暗いうちに、院長室、寮監室の部屋に灯が付き、神様との交わりの世界を慕わせました。

聖書に生き語られる学び、授業、その合間にノートのマージンに綴られる伝道者の在り方や実践のコメント、霊の世界の心の営みや学びの仕方、学びの楽しさを知りました。ピリー・グラハム大会やミッション、支部、志道者会で福音の素晴らしさを自分自身だけの体験でなく他の人の中にも見せて頂き救霊の情熱が与えられる大切なご訓練を感謝しました。三年生の時には廿周年の総会がもたれ新しき神経験のメッセージ集は伝道者生涯の指針となりました。院長室の古典の三冊の本によりキリストのように生きる真剣な聖書の取り組み、弱さやたくさんの欠けを持つ者がきよめの転機とご聖霊と血潮によって主のみかたちに変えられてゆくのちの道を示され感謝しています。詩篇一六・6、11。

同窓生の近況

42期生

越谷教会●川村宏美



越谷教会が産声をあげてから30年。私がクリスチャンとなったのも、ちょうどこの年です。

開拓3年目の、枚方教会。その小さな教会の祈り会で何度も聞いて覚えた「越谷」という地名。東に遠く離れたその地に、私の拙い祈りも向けました。その私が30年後の今、越谷教会に仕え、共に記念の年を祝っている……。

感謝あふれます。

越谷は、大きなモール街を中心としたニュータウン開発と並行し、旧日光街道沿いの商店街では、宿場町としての旧きを生かした街づくりが進められています。

江戸時代からたたずんできた蔵や築120年の秤屋屋敷は、古民家複合施設としてデビュー。Cafeで老夫婦がくつろぎ、若い作家さんがアクセサリー作る音の傍ら、子どもたちがひだまりで絵本。江戸時代のように時がゆったり。そのCafeに、クリスマススの案内チラシも置かせていただきました。

このまちに、福音が溶け込んでいきますようにと祈りつつ。

神学院スタッフ…恵みの想起

定まった時期と時

宮繕課 徳竹信雄

来春の創立70周年記念に向かって、今まで予想もつかなかった整備がなされています。

台風24号の通過で、樹木が折れたり傾いたして後始末に時間がかかりました。屋根も剥がされ、中から青空が見えるような倉庫となりました。そんな中で、今年は柿もみかんも豊作でした。これから古い建物の取り壊しも始まります。

リニューアルされたベテルハウスの奥に、ひっそりとたたずむ古びた2棟ですが、いよいよ使命を終えて、取り壊しになります。「すべての中には定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。」(伝道者の書三・1)のみことばのごとくです。時が来たら一気に御業がなされるのだと知り、ここまでの主のみ守りに感謝しております。

学苑だより



●ベテルハウスはアラムナイ関連団体や学生団体からも使用の希望が寄せられ、先月は学生団体に使っていただきました。年末のBTCリトリートでも参加者の皆さまをお迎えしたいと思います。

●70周年記念改修工事は、本館屋根の補修と裏手の廃屋解体が残されています。2019年5月の同窓会までに終える予定です。

●宮繕ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹信雄先生にご連絡ください。

●神学院祈り会は4日(火)です。

●後援会から

・後援会の創立70周年記念感謝献金はそれぞれ感謝を表したく、可能な範囲でお加わり下さい。10月末現在7百万円の尊い献金が届けられております(2019年5月まで、目標額200万円)。

・引き続き世話人のご推薦をお願い致します。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。10月の会計報告をさせていただきます。

10月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥1,105,870
教会団体による「神学院献金」
¥591,715
合計¥1,697,585
その他の献金(一時・特別)
¥218,627

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

二〇一八年 祝 降誕節

「ご覧下さい。私は主のはし
ためです。どうぞ、あなたのおこ
とばどおり、この身になりますよ
うに。」(ルカの福音書一章38節)

この年もクリスマス、年末の月
を迎えました。世の救い主として
来られた主イエス・キリストの聖
誕を待ち望むアドベント(待降節)
の期間に入り、各教会においてさ
まざまな準備が祈りとともに重ね
られていることと存じます。

各教会におけるクリスマス関連
の諸プログラム、及び年末年始の
諸集会において、主の恵みが証し
され、栄光を拝することができ
るよう祈ります。また、特に、幸
いなクリスマスの節期に、各教会
に導かれる方、受洗者が興されま
すようお願いいたします。

■本 部

例年この時期に全国の教会は、
「クリスマス・下半年感謝献金」
を実施しています。主への感謝、
働き人への感謝を表すための献金
に、愛児姉方のご協力をいただき
たくよろしく願っています。

【牧師・会計担当者へお願い】

教会年度の区切りを迎えますが、
各教会は通常会計だけでなく、会
堂会計、予備会計などの特別会計
の会計処理を明確にして、1月に
持たれる教会総会に備えましょう。

なお、年報など新年度事務報告
書類一式を、12月4日付けで本部
から発送いたします。提出期限は
1月22日(火)となっております
ので、遅れないようによりしくお
願いいたします。

書類の中に、2019年度の
「教団主要行事予定表(暫定版)」
が含まれています。予定に関して
修正や付加の情報がございましたら、
本部総務局までお知らせくだ
さい。年会時に確定版を出す予定
です。

〈年末・年始の業務〉

本部 12月18日(火)まで
1月8日(火)から
出版 12月20日(木)まで
1月10日(木)から

〈新年聖会〉

明年年頭も各地域で新年聖会が
予定されています。今から、年始
めの聖会に出席することを予定に
組み入れ、新年の良きスタートを
切らせていただきますように。

〈第74次年会〉

来年の年会は2019年3月5日
(火)〜7日(木)の日程で、ヌ
エック(国立女性教育会館)を会
場に行われます。初日の受付開始
は午後1時です。最終日は午前の
聖会、教職按手式、任命式で終了
となります(11時半終了予定)。

■国内教会局

一年の締めくくりの月、各教会
ではクリスマスの洗礼式を目指し
て備えがなされています。求道者
方々が明確な救いに与られ、受洗
へと導かれるように、教会全体で

祈りましょう。

〈伝道サポートシステム〉

▽先月もたれた国内教会局運営委
員会にて、来年度の伝道サポート
システムの検討がなされ、五教会
(清水、新潟、小松、彦根、鳥取)
の申請が承認されました。それぞ
れの教会における働きが豊かな実
を結ぶことができそうですようお祈
りください。

■世界宣教局

▽救い主のお誕生を心からお祝い
申し上げます。全国の教会また会
員の方々がお献げ下さいました、
お祈りと尊いご献金によって、こ
の一年も、ともに世界宣教の働き
を進めることができ、心から御礼
感謝を申し上げます。

▽11月の宣教聖日を目指して宣教
コイン献金にご協力いただき感謝
いたします。来る1年もご協力を
お願いいたします。なお本部送金
の際には、通常の送金のもとと区
別して「宣教コイン献金」と明記
してご送金ください。

▽世界宣教局ホームページをご活
用ください。

*最新の局、宣教地の情報を得る
ことができます。

*教報には紙面の都合上、掲載で
きない宣教地の祈祷課題も載って
います。

▽2019年の宣教訪問団の参
加者を募集します。教団では初め
てザンビアに訪問団を送ります。

*訪問地：ザンビア共和国 ジェ
ンボクリニック(富澤香宣教師、
根廻恵子宣教師)

*日程：2019年8月27日
(火)〜9月5日(木)

*団長：岩上頼子師(神戸教会)

*プロジェクト：クリニック救急
車入り口舗装工事のお手伝い

*参加者：青年、医療宣教に関心
のある方を中心に、8名まで

*教育局との共催により青年への
補助あり

*関心のある方は局(担当：神栖
教会 葛田敬子師)までご連絡く
ださい。

〈IWF関係〉

▽11月13日(火)にIWF理事
会を本部で開催し、ウエスレヤン
の東アジア地区担当、ティム・ギ
ヤラント宣教師もカンボジアから
出席されました。

■聖霊神学院

▽第6回BTCリトリートのご
案内

12月27日(木)夜〜29日(土)
午前

聖会講師は日本宣教会狭山キリ
スト教会の小坂嘉嗣先生です。聖
会は一般公開。登録しておられな
い方もぜひご参加ください。

教会にお届けしたチラシをご覧
ください。教会締め切りは12月9
日(日)です。

▽神学院祈り会

4日(火)午後6時、本部会議
室。奨励は内山勝先生です。

▽信徒土曜講座の秋学期は今から
でも参加が可能です。

▽BTC後援会からのお知らせ
神学院創立70周年感謝献金は10
月末現在7百万円の尊い献金が献

げられております。感謝の表明と
してお加わり下さい(2019
年5月まで、目標額20百万円)。
各教会から世話人の推薦をお願
いします。

■出版事業部

ご案内していますように新改訂
2017「ミニバイブル」が発売
になりました。また「聴く聖書
2017新約版」も発行されま
した。出版事業部で取り扱います。
●宣教研究部よりの感謝とお願い
「伝道・教会活性化アンケート」
へのご協力を感謝申し上げます。

締め切りは11月12日でしたが、ま
だの教会は大至急お送りくださ
いますようお願いいたします。

消息 報告



▽宇都宮教会のFAX番号が、電
話番号と共用になりました。

047(622)8661

(電話番号に変更はありません)

第74次年会に向けて 年会準備祈禱会

日時 2月4日(月)
午後2時〜3時30分
会場 東京・御茶ノ水
OCC411 会議室
説教 小川宣嗣師

教報PDFパスワード：8052

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609